

保護者の皆様

大阪府立東大阪支援学校
校長 藤野 洋子

令和7年度 学校教育自己診断アンケートの結果について（報告）

このたびは学校教育自己診断アンケートの実施にあたり、保護者、児童生徒の皆様には多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

今回のアンケート結果を以下のようにまとめました。今後の学校教育に活かせるよう、ご報告させていただきます。また、学校ホームページにも詳細な集計結果を掲載させていただいておりますので、ご覧いただければと思います。

1. 回答率（配付実施日：11/26～12/8）

	教職員	保護者	児童・生徒
小学部	100%	96%	23名
中学部	100%	70%	11名
高等部普通課程	100%	81%	17名
高等部生活課程	100%	74%	39名

2. 児童生徒の結果

全体的に概ね肯定的な回答が多かったです。一部の項目では（4）「卒業後の仕事や生活について、学習することがありますか」の質問に対し、「わからない」の回答が多かったです。

結果をふまえて、キャリア教育の視点を重視し、授業や学校生活で「働くこと」「社会で生きる力」を育む場面を日常的に設定していくことが望ましいと考えています。また、全学部で校内外の職場体験や外部人材の活用を広げ、実社会の職業観や生活スキルを学ぶ機会を「見える化」し、わかりやすく発信する取り組みを検討していきたいと考えます。

3. 保護者の結果

全体的に見て、「よくあてはまる」「あてはまる」の肯定的意見が多かったです。

（14）「ICT機器」等の項目では、肯定的意見が昨年度と比べて10%増加しました。一方で、「わからない」の回答は昨年度と同水準の33%でした。

「ICT機器」の項目については、これまでよりもさらに充実した発信方法や活用の見える化に加え、「一人一台端末の実施」も段階的に検討が必要と考えます。

4. 教職員の結果

全体的に見て、「よくあてはまる」「あてはまる」の肯定的意見が多かったです。

一部の項目では「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「わからない」の回答が多い項目もありました。特に（11）「他学部授業見学週間による授業改善」授業力向上に関する項目では課題が残りました。また、前年より数値が低下した（14）「学校行事の魅力化」の項目や、（27）「個別の指導計画／教育支援計画の共通理解・活用」の項目については、新しくした行事の魅力化とアップデート、個別の指導計画／教育支援計画ではファイルデータの中に留めず、授業場面等への落とし込みまでの行動に移していく必要があると考えます。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。保護者の皆様には、今後ご理解とご協力の程よろしく願います。